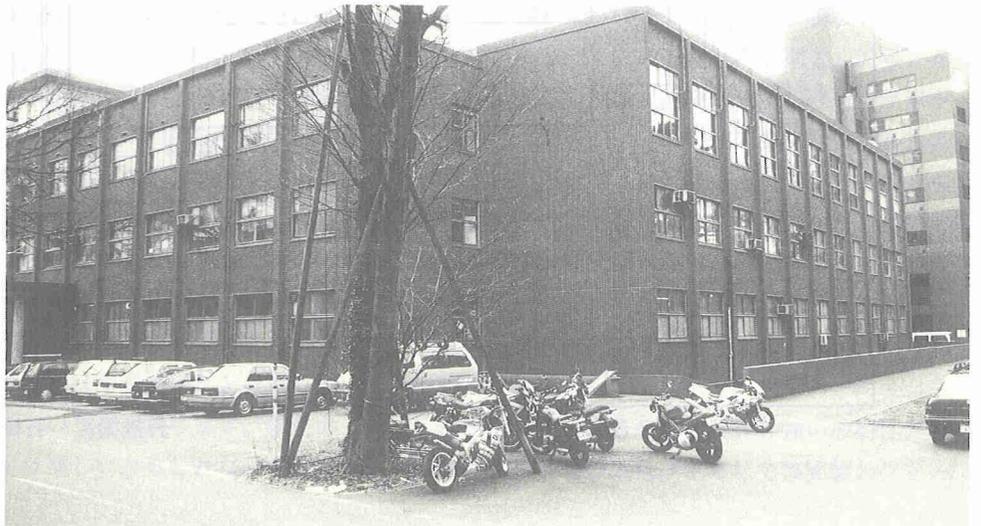


# 東京大学

大学院理学系研究科・理学部

# 廣報

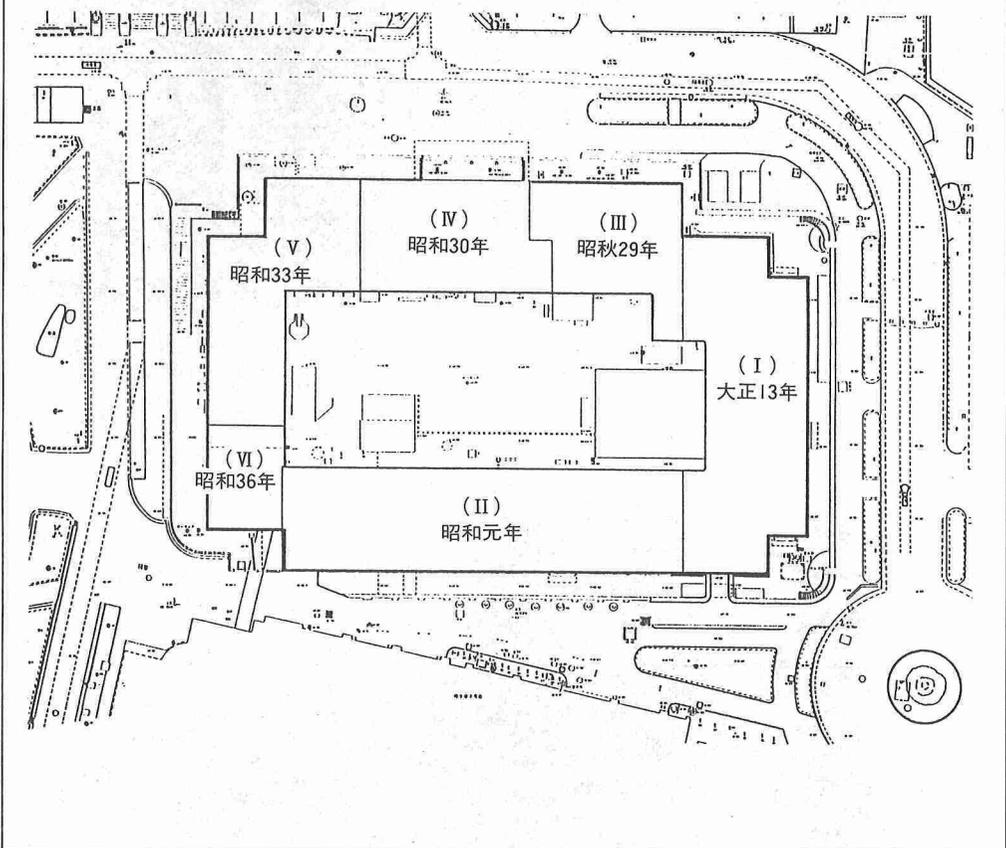


## 表紙の説明

理学部一号館は、大正13年着工の第1期工事から現在の姿となるまでの間、6期にわたる工事（下図参照）により完成した。この約70年の間に、理学部における教育・研究の場として、幾多の優秀な研究者・教育者を輩出している。

理学部では、大学院の重点化及び現代科学研究の高度化に伴う建築の狭隘化と、長年の風雪に耐え抜いた老朽化等により、かねてから計画中であった各号館を統合する中央化構想の一貫として、1号館を建て替え、高層化する計画の一部が本年度から実現の運びとなった。

1号館の雄姿も、本年3月頃から一部解体工事が開始される予定であり、ここにその最後の姿を紹介した。



表紙撮影 石橋勝行(地理)